

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成26年12月29日 (NO.44)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所



パネルトーク・2

「CS 導入への関わり方や果たすべき役割について考える。」



第2部 パネルディスカッション 「コミュニティ・スクールの導入」

- パネラー
- 四柳千夏子氏 (講師)
 - 平岡弘孝氏 (校長会長)
 - 山口 純 氏 (町P 連会長)
 - 岸田 睦 氏 (CS 推進委員長)
 - 笹川尚哉氏 (浦小教諭)
- コーディネーター 久門好行 (教育長)

(笹川尚哉教諭) 安定した四輪走行で同じ方向を目指すことが大切です。CS の運用にあたっては、担任任せにせず学校全体で年間を見通した活用計画をつくり、地域に支援をお願いしていきます。

「うらほろスタイル学習」を一つ一つ積み上げていくとともに、地域の人たちと遠慮せずに言い合える関係作りを進めます。

(岸田睦推進委員長) 今やっていることを一度掘り下げて意識改革に努めることが必要です。

農林漁家への民泊体験学習の意義を再確認するとともに、以前開催していた「子ども祭りと通学(楽)合宿」のコーポを再現してみたい。「大変だけどみんなで楽しむ、未来のために」を合言葉に、地域総ぐるみの教育を推進したいですね。

(山口純町P 連会長) PTA としても CS 導入に向け、教育委員会とも連携をとりながら労力を惜しまず行動していきます。

交通安全や地域行事の見回りを合同で行うなど、できることから始めていくことが大切です。PTA 会員の皆さんに CS の理解を深めるため、積極的な情報発信に努めます。

(平岡弘孝校長会会長) 小中一貫教育と CS をいかに結び付けていくかが課題です。保護者や地域の声を聞きながら、学園で取り組むべき目標や手立てを明らかにしていきます。

協働しやすいシステムを作り、顔の見える関係作りを進めながら、地域全体が「大家族」として関わってもらえるような雰囲気を作ります。



(水澤町長から)

四柳さんのお話は大変わかり易く、CS の方向性が見えてきました。

CS は緒についたばかりです。こうした研修を通じて、町民の皆さんに CS の考えを広げていきましょう。

CS の合言葉

大変だけど
みんなで楽しむ
未来のために